

令和8年4月1日

AI-SHIPS に関する JaCVAM 資料編纂委員会の評価結果

結論

AI-SHIPS は化審法のスクリーニング試験（28 日間反復投与毒性試験）等を主とした実験結果を評価する際の参考資料としての利用が想定される。

ただし、以下に示す条件を満たしていなければならない。

1. AI-SHIPS のソフトウェアシステムを公開して希望者が利用できるようにすること
2. システム開発に関わるすべての実験データや実験プロトコルおよび QMRF などの情報を HP で公開すること
3. ユーザーがわかりやすい取扱説明書の公開すること
4. QMRF をもとに判断した結果、AI-SHIPS は国際機関が受け入れる毒性評価ソフトとしては不十分であると本委員会は判断した。今後、世界の動向を加味したソフトの更新がなされること

以下は委員会からの要望である。

5. 外部バリデーションや事例報告の追加を検討することが望ましい
6. 将来的に、ユーザーニーズに柔軟に対応できる体制の構築が望ましい（モデルおよびデータの再利用機能）

以上

JaCVAM AI-SHIPS 資料編纂委員長
楠原洋之